

講義名	流通システム原理特論			授業形態	
担当教員	向山 雅夫	開講期・曜日・時限		前期 木曜日 2時限	
		単位数	0	履修開始年次	1年生
主題と概要					
本講義は、流通システムに関する基本知識の習得を目的としている。流通・マーケティング分野に関連する他の講義を履修する上で必要な基礎知識、とりわけ流通システムの構造と動態、それらを規定する要因に関する理解を深めることを狙いとしている。					
到達目標					
1. 流通システムの構造と動態、それらを規定する要因に関する理解を深めることができるようになる。 2. 現実の背後にある問題を理論的に論じることができるようになる。 3. 修士論文を作成する際に必要となる流通システムに関する基礎理論を完全にマスターすることができるようになる。 4. 着眼すべき論点から解明すべき研究上の問題を導くことができるようになる。					
提出課題					
毎回の講義は、その回に取り上げるテキストの「報告者と討論者」各1名のプレゼンテーションを軸に、ディスカッション形式で行われる。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
毎週の報告プレゼンおよび質問プレゼンに対して、毎週コメント・アドバイスをすることで、よりレベルの高いプレゼンができるようにする。					
評価の基準					
次の3側面から評価する。 (1) ディスカッションへの貢献度30% (2) 報告および質問プレゼンのレベル30% (3) 最終記述試験 40%					
履修にあたっての注意・助言他					
取り上げるテキスト(文献コピー)を初回時に配布する。必ず事前に予習したうえで、ディスカッションに参加すること。いわゆる一方的な知識伝達としての「講義」は行わない。					
教科書					
. 使用しない。					
参考図書					

その他		
受講者数および受講者のレベルに対応して、講義で採用する文献を決定するが、シラバス執筆時点（2023.2月）では、2023年度の合格者数が未定であるため、取り上げる文献の質量を決めることができない。採用する文献は、初回講義時に一括配布する。		
授業計画		
上記のように、具体的に取り上げる文献を現時点で決定できないので、毎週のテーマも未決定であるが、例えば以下のようなものになるであろう。初回で改めて告知する。 1 講義解題・担当割り当て 2 流通機能 3 流通機能 4 流通機能の分化と統合 5 商業の社会性と売買集中の原理 6 商業者の機能と存立根拠 7 マーケティングと商業 8 流通革命論 9 卸売商業構造（新聞屋無用論を含めて） 10 業態論 11 業態論 12 中小小売商業の存立 13 流通政策 14 まとめ 15 最終記述試験		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
○ ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
取り上げるテキストおよび予習（内容の要約）・復習についての資料すべてを第1回目に配布する。ディスカッションに参加するためには、報告者・質問者以外の受講生も、必ず事前に予習しておくこと。 取り上げる文献が何であれ、毎週の資料を読み、その内容を理解し、必要な追加知識を自ら取得するために、最低毎週4時間の予習が必要になる。日本語能力に問題がある場合には、さらに2～3時間の追加時間の投入が必要となるであろう。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
1. 流通理論の基礎を徹底的に学ぶことができる本講義を通じて、理論的・実証的な課題を研究するために必要な科学的方法を身につけることができる。 2. 流通関連の修習テーマに取り扱う学問にとって、実例を取り入れながら流通理論を学ぶことによって、必要な研究能力を養成することが可能になる。 3. 修論作成に必要な基礎流通理論を本講義によって身につけることができるため、一層理論的観点から高いレベルの修論作成が可能になる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
少人数授業のため、原則、対面授業で行います。対面授業のオンデマンドでの公開はしません。ただし、コロナ拡大時にはLive方式等に切り替える可能性もあります。講義形式の変更があった場合でも、成績評価方法は変更しません。		
実務経験の有無及び活用		
備考		